「自立循環型住宅への設計ガイドライン」による省エネルギー効果の評価
応募用紙 B　採用した要素技術のチェックシート（蒸暑地　Ⅵ地域）

応募用紙 B は、自立循環型住宅の設計のため採用した要素技術の省エネルギー効果を確認するためのチェックシートです。各要素技術の利用手法を該当するチェックシートに記入した上、エネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

要素技術		チェックシート
自然エネルギー活用技術	1)　自然風の利用	p2-5
	2)　昼光利用	p6-7
	3)　太陽光発電	p8
	4)　日射熱の利用	Ⅵ地域対象外
	5)　太陽熱給湯	p9-10
建物外皮の熱遮断技術	6)　断熱外皮計画	Ⅵ地域対象外
	7)　日射遮蔽手法	p11-13
省エネルギー設備技術	8)　冷房設備計画	p14
	9)　換気設備計画	p15-16
	10) 給湯設備計画	p17-18
	11) 照明設備計画	p19-20
	12) 高効率家電機器の導入	p21-22
	13) 水と生ごみの処理と効率的利用	p23

自然風の利用　チェックシート

自然風を利用するための工夫をしました。

□　YES　→　「自然風の利用　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「昼光利用　チェックシート」へ

※　以下の手順に従って、採用した自然風の利用技術のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　ガイドラインに従って、下記の立地条件を選択してください。

□　立地１：都市型の立地（区域建蔽率が 20%超）

□　立地２：郊外型の立地（区域建蔽率が 20%以下）

2.　外部風速を確認してください。

建設地における外部風速を選択してください。外部風速は地上 6.5m 位置の終日の平均風速値で、Web 上に掲載している気象データに関する情報(蒸暑地版ガイドライン p.044 コラム参照)を基に選択することを基本とします。

外部風速は

□　1m/s 以下　　□　1～2m/s　　□　2m/s 以上

3.　自然風利用の手法を確認してください。

以下の手順に従って、確認してください。

(ア) 評価する主要な居室（冷房エネルギーを消費する居室）を平面図上にわかるように印をつけてください。評価する主要な居室は、リビング・ダイニング用途の他に、子供室用途、寝室用途の順で 3 室まで選び、p.64～65 の室別の評価を行ってください。

(イ) ガイドライン p50 の図 1 を参照し、上記(ア)で選んだ主要な居室の通風経路を平面図上に記載し、「通風経路①」等と名前を付けてください。

(ウ) 評価法 A と評価法 B のどちらで評価するかをお選びください。

・評価法 A : 開口面積比(対象居室の床面積に対する開口面積の比率)で簡便に評価します(p.50 表 3、p58 表 6 による評価になります)

→(エ)をご確認ください。

・評価法 B：p.51 コラム記載の合成有効開口面積を算定する方法によります。

→(オ)をご確認ください。

(ア) [評価法 A]による評価を行います。

主要な居室ならびに通風経路について、以下の項目を確認し、下記の評価表に記入し、評価を実施してください。チェックボックス(□)がある場合は、該当する場合にチェックを入れてください。

・通風経路①～③で評価する居室の名前(例：リビングダイニング、寝室等)
・通風経路①～③で評価する居室の床面積[m^2]
・通風経路①～③上の室内開口部の有無(p50 図 1 参照)
→「無」の場合は、以下の「室内開口部」について記入の必要はありません。
・通風経路①～③上の各開口部での「高窓」の利用(p58～59 手法 3 参照)
・通風経路①～③上の各開口部が「風上側」位置にあるかの確認(p57 手法 2 参照、この評価は立地 2 (郊外型の立地)に限ります)。
・通風経路①～③上の各開口部の面積[m^2]
・開口面積の床面積に対する比を記入し、各通風経路(対象居室)で手法 1～3 を満たすかどうかを、p.50～p.59 を参照して判定してください。
・p.48 の表 2 を用い、立地、外部風速、手法の組合せから得られる換気回数を確認してください。

通風経路		通風経路①			通風経路②			通風経路③		
居室の名前										
居室の床面積[㎡]										
室内開口部あり		□			□			□		
		開口部1	室内開口部	開口部2	開口部1	室内開口部	開口部2	開口部1	室内開口部	開口部2
高窓の利用		□	－	□	□	－	□	□	－	□
風上側に位置する		□	－	□	□	－	□	□	－	□
開口面積[㎡]										
開口面積の床面積に対する割合										
みたす手法	手法 1a	□			□			□		
	手法 1b	□			□			□		
	手法 2	□			□			□		
	手法 3a	□			□			□		
	手法 3b	□			□			□		
換気回数[回/h]										

以上の記入が終わりましたら、4.をご確認ください。

(イ) [評価法 B]による評価を行います。

主要な居室ならびに通風経路について、以下の項目を確認し、下記の評価表に記入し、評価を実施してください。チェックボックス(□)がある場合は、該当する場合にチェックを入れてください。

・通風経路①～③で評価する居室の名前(例：リビングダイニング、寝室等)
・通風経路①～③で評価する居室の床面積[m^2]
・通風経路①～③上の室内開口部の有無(p50 図 1 参照)
→「無」の場合は、以下の「室内開口部」について記入の必要はありません。
・通風経路①～③上の各開口部での「高窓」の利用(p58～59 手法 3 参照)
・通風経路①～③上の各開口部が「風上側」位置にあるかの確認(p57 手法 2 参照、この評価は立地 2 (郊外型の立地)に限ります)。
・p.51 コラムを参照して、通風経路①～③上の各開口部の窓のタイプ(引違窓、すべり出し窓など)、幅[m]、高さ[m]、採用した流量係数、有効開口面積[m^2]、合成された有効開口面積[m^2]を記入してください。
・合成有効開口面積の床面積に対する比 i を記入し、各通風経路(対象居室)で手法 1～3 の要件を満たすかどうかを、p.51 コラムおよび p.50～p.59 を参照して判定してください。
・p.48 の表 2 を用い、立地、外部風速、手法の組合せから得られる換気回数を確認してください。

通風経路	通風経路①			通風経路②			通風経路③		
居室の名前									
居室の床面積[㎡]									
室内開口部あり	□			□			□		
	開口部1	室内開口部	開口部2	開口部1	室内開口部	開口部2	開口部1	室内開口部	開口部2
高窓の利用	□	－	□	□	－	□	□	－	□
風上側に位置する	□	－	□	□	－	□	□	－	□
開口の幅[m]									
開口の高さ[m]									
流量係数									
有効開口面積[㎡]									
合成有効開口面積[㎡]									
合成有効開口面積の床面積に対する比 i									

みたす手法	手法 1a	□（i≧0.01）	□（i≧0.01）	□（i≧0.01）
	手法 1b	□（i≧0.02）	□（i≧0.02）	□（i≧0.02）
	手法 2	□（風上側）	□（風上側）	□（風上側）
	手法 3a	□（高窓, i≧0.006）	□（i≧0.006）	□（高窓, i≧0.006）
	手法 3b	□（高窓, i≧0.012）	□（i≧0.012）	□（高窓, i≧0.012）
換気回数[回/h]				

□　以上の記入が終わりましたら、4.をご確認ください。

4.　自然風の利用を採用した場合の冷房エネルギーの消費率をご確認ください。

各対象居室で得られる換気回数から住宅全体のエネルギー消費率を算定します。一つの居室(通風経路)を対象に評価している場合は、p.48 表 1 をもとにエネルギー消費率(1 から冷房エネルギー削減率を引いたもの)を確認してください。また、ここまで複数の居室(複数の通風経路)で評価している場合は、主要な居室としてリビング・ダイニングのみで評価する方法(リビング・ダイニングの換気回数をもとに p.48 の表 1 による方法)と、p.64～65 の室別の計算方法により算定する方法がありますので、お選びください。

エネルギー消費率：　＿＿＿＿＿＿＿＿	
算定方法：	**□p. 48 表 1 をもとに算定(←↓どちらかを選んでください)** **□p. 64～65 の室別の計算方法により算定**

昼光利用　チェックシート

昼光を利用するための工夫をしました。

□ YES → 「昼光利用　チェックシート」をお答えください。

□ NO → 「太陽光発電　チェックシート」へ

※ 以下の手順に従って、採用した昼光利用技術のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1. ガイドラインに従って、下記の立地条件を選択してください。

□ 立地１：太陽光の利用が困難な過密・高層型の立地

□ 立地２：太陽光の利用に工夫が必要な過密型の立地

□ 立地３：太陽光の利用が容易な郊外型の立地

2. 昼光利用の手法を確認してください。

手法１　直接的な昼光利用手法

直接的な昼光利用手法を採用している場所名（図面における空間名）と採光面（側窓、頂側窓など）を記入してください。

記入例：リビング、2 面採光：南と東に側窓部が設けてある。

手法２　間接的な昼光利用手法

間接的な昼光利用手法を採用している場所名（図面における空間名）とその工夫（吹き抜け・欄間・光井戸・光庭等による導光、仕上げ面の反射、装置による導光など）、を場所ごとに記入してください。

3. 採光条件を判定してください。

□ 採光条件１： LD２面採光

□ 採光条件２： LD・老人室・子供室２面採光

□ 採光条件３： LD・老人室・子供室２面採光＋非居室全て１面採光

4. 昼光利用による照明エネルギーの消費率のレベル評価を行ってください。

レベル評価 / 採光条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
	1.0	0.97-0.98	0.95	0.9
立地１	□1 面採光（床面積×1/7）	□採光条件 3	—	—
立地２	—	□採光条件 2	□採光条件 3	—
立地３	—	□採光条件 1	□採光条件 2	□採光条件 3

記入例：立地 2、採光条件 2 の場合：

レベル評価 / 採光条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
	1.0	0.97-0.98	0.95	0.9
立地１	□1 面採光（床面積×1/7）	□採光条件 3	—	—
立地２	—	■採光条件 2	□採光条件 3	—
立地３	—	□採光条件 1	□採光条件 2	□採光条件 3

太陽光発電　チェックシート

太陽光発電を利用する。

□　YES　→　「太陽光発電　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「太陽熱給湯　チェックシート」へ

1. 太陽電池の容量を記入してください。

   _____ KW

2. 太陽光発電の利用によるエネルギー消費の削減量のレベル評価を行ってください。

	削減量のレベル評価			
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
	削減なし	33.7GJ 削減	45.0GJ 削減	—
太陽電池の容量	□採用なし	□3kW 程度	□4kW 程度	—

記入例：3kW の太陽電池を採用した場合：

	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
	削減なし	33.7GJ 削減	45.0GJ 削減	—
太陽電池の容量	□採用なし	■3kW 程度	□4kW 程度	—

太陽熱給湯　チェックシート

太陽熱給湯を利用する。

□　YES　→　「太陽熱給湯　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「断熱外皮計画　チェックシート」へ

※　以下の手順に従って、採用した太陽熱給湯技術のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　太陽熱給湯装置を下記から選択してください。

□　太陽熱温水器　　（集熱部と貯湯部が一体で自然循環により集熱する形式）

□　ソーラーシステム（集熱部と貯湯部の間で強制循環により集熱する形式）

2.　太陽熱給湯利用の手法を確認してください。

手法１　集熱部の面積の確保

以下の手順に従って、手法１を満たすかどうかを確認してください。

（ア）　　機器メーカーの情報（カタログ等）を確認し有効集熱面積を記入してください。

有効集熱面積：＿＿＿＿＿＿（㎡）

（イ）　　手法１の要件を満たすかどうか判断してください。

□　手法１ａを満たす：有効集熱面積が 3.5 ㎡未満。

□　手法１ｂを満たす：有効集熱面積が 3.5 ㎡以上 5 ㎡未満。

□　手法１ｃを満たす：有効集熱面積が 5 ㎡以上。

手法２　補助熱源との適正な接続

当てはまる手法をチェックしてください。

□　手法２a：補助熱源と接続しない。

□　手法２b：三方弁を用いて補助熱源機に接続する。

□　手法２c：ソーラー接続ユニットを用いて補助熱源機に接続する。

手法３　省エネ型の循環ポンプの採用（ソーラーシステムのみ）

□　採用しています。

（特に記入不要です。）

3.　太陽熱給湯を採用した場合、給湯エネルギーの消費率ご確認ください。

	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.0	0.9	0.7	0.5	0.3
太陽熱温水器	□従来型ガス給湯機	□手法 1a+2a	□手法 1a+2c □手法 1b+2b	□手法 1b+2c	□手法 1c+2c
ソーラーシステム	□従来型ガス給湯機	（□手法 1a+2a）	□手法 1a+2c □手法 1b+2b	□手法 1b+2c+3	□手法 1c+2c+3

記入例：太陽熱温水器を設置し、手法 1a, 2c を採用した場合：

	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.0	0.9	0.7	0.5	0.3
太陽熱温水器	□従来型ガス給湯機	□手法 1a+2a	■手法 1a+2c □手法 1b+2b	□手法 1b+2c	□手法 1c+2c
ソーラーシステム	□従来型ガス給湯機	（□手法 1a+2a）	□手法 1a+2c □手法 1b+2b	□手法 1b+2c+3	□手法 1c+2c+3

日射遮蔽手法　チェックシート

日射遮蔽手法を採用する。

□　YES　→　「日射遮蔽手法　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「冷房設備計画　チェックシート」へ

※　以下の手順に従って、採用した日射遮蔽技術のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　蒸暑地版ガイドライン p168 の表 2 を参考し、立地条件を確認してください。

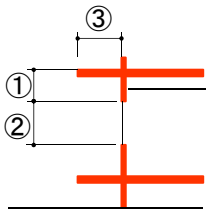
□　立地 1　主に都市内など隣戸等が接近した位置にある立地
□　立地 2　都市近郊など隣戸等がやや接近した位置にある立地
□　立地 3　主に近郊など隣戸等が接近した位置にない立地

2.　日射遮蔽手法を確認してください。

手法 1　外部遮蔽装置による日射遮蔽手法

(1) 開口部の①窓庇間距離、②窓高さ、③庇の出仕様を記入してください。

北：
①____mm　②____mm　③____mm
東：
①____mm　②____mm　③____mm
南：
①____mm　②____mm　③____mm
西：
①____mm　②____mm　③____mm



(2) 蒸暑地版ガイドライン p169 の表 3 を参考し、外部遮蔽装置のクラスを確認してください。(4 方位のうちある方位における外部遮蔽装置の仕様が表 3 よりも日射遮蔽効果が低い場合には、当該方位の外部遮蔽装置の仕様に見合うクラスに該当するものとしてください。)

□　クラス 0
□　クラス 1
□　クラス 2
□　クラス 3

手法２　躯体による日射遮蔽手法（外皮）
(3) 日射遮蔽対策のための躯体仕様を確認してください。

□　仕様 1：無断熱・無体策
□　仕様 2：無断熱・屋根通気（屋根面上に換気される通気層を確保する）
□　仕様 3：屋根断熱（屋根に断熱を施す）
□　仕様 4：無断熱・屋根反射（屋根表面の日射反射率を高める）

※断熱の要件は、熱抵抗値 0.8 ㎡・K/W 程度（押出法ポリスチレンフォーム保温板 2 種 30 ㎜に相当）の断熱材を設置することを要件とする。屋根通気については 30㎜ 以上の通気層を要件とする。

3. **日射遮蔽手法を採用した場合、冷房エネルギーの消費率をご確認ください。**

(1) **立地１：**

	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.0	0.9	0.8	0.75	0.7
クラス 0	□仕様 1	□仕様 2	—	□仕様 3	□仕様 4
クラス 1	□仕様 1	□仕様 2	—	—	□仕様 3、4
クラス 2	□仕様 1	□仕様 2	—	—	□仕様 3、4
クラス 3	—	□仕様 1	□仕様 2		□仕様 3、4

(2) **立地 2：**

	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.0	0.9	0.8	0.75	0.7
クラス 0	□仕様 1	□仕様 2	—	□仕様 3、4	—
クラス 1	□仕様 1	□仕様 2	—	□仕様 3	□仕様 4
クラス 2	—	□仕様 1	□仕様 2		□仕様 3、4
クラス 3	—	□仕様 1	□仕様 2		□仕様 3、4

(3) **立地 3：**

	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.0	0.9	0.8	0.75	0.7

クラス 0	□仕様 1	□仕様 2	□仕様 3、4	—	—
クラス 1	□仕様 1	□仕様 2	—	□仕様 3、4	—
クラス 2	□仕様 1	□仕様 2	—	—	□仕様 3、4
クラス 3	—	□仕様 1	□仕様 2	—	□仕様 3、4

記入例：立地 1 、外部遮蔽装置がクラス 2、屋根断熱（仕様 3）の場合：

（1）立地 1 ：

	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.0	0.9	0.8	0.75	0.7
クラス 0	□仕様 1	□仕様 2	—	□仕様 3	□仕様 4
クラス 1	□仕様 1	□仕様 2	—	—	□仕様 3、4
クラス 2	□仕様 1	□仕様 2	—	—	■仕様 3、4
クラス 3	—	□仕様 1	□仕様 2		□仕様 3、4

冷房設備計画　チェックシート

（回答必須）

※　以下の手順に従って、冷房設備のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　エアコン設置の有無についてお答えください。

□　エアコン設置あり

□　エアコン設置なし

設置ありの場合は以下の内容をお答えください。また、カタログを送付してください。

2.　省エネ手法を確認してください。

手法 1　高効率エアコンの導入

エアコンの冷房 COP を記入してください。

冷房 COP：＿＿＿＿＿＿＿＿

□　冷房 COP：3.0 程度

□　冷房 COP：4.0 程度

□　冷房 COP：5.0 程度

手法 2　扇風機・天井扇の採用

□　採用

□　非採用

3.　冷房設備計画による冷房エネルギーの消費率を確認してください。

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
1.0	0.9	0.8	0.75	0.65
□COP3	□COP4	□COP3+手法 2 □COP5	□COP4+2	□COP5+2

記入例：エアコンの冷房 COP が 4.0、扇風機・天井扇を使用しない場合：

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）				
レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
1.0	0.9	0.8	0.75	0.65
□COP3	■COP4	□COP3+手法 2 □COP5	□COP4+2	□COP5+2

換気設備計画　チェックシート

（回答必須）

※　以下の手順に従って、暖冷房設備のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1.　換気方式を下記から選択してください。

□　ダクト式換気システム（第一種、第二種、第三種）（方式１）

→　３－１）換気設備計画（方式１）にお答えください。

□　壁付け式換気システム（第一種、第二種、第三種）（方式２）

→　３－２）換気設備計画（方式２）にお答えください。

可能であれば、仕様が分かる資料（カタログのコピー等）を別添として送付してください。

３－１）ダクト式換気システム（第一種、第二種、第三種）（方式１）

(1) 手法を確認してください。

□　手法１　ダクト等の圧力損失低減

（以下、採用するにチェックした方のみお答えください。）

ダクト等の圧力損失低減のための工夫（例：ダクト径を大きめ（直径 75㎜以上）のものを使用している。ダクト長さを適正化し、曲がりを極力減らす工夫をしている等）について記入してください。（自由記述）

※ダクト等の配置図を添付してください。

□　手法２　高効率機器の導入

（以下、採用するにチェックした方のみお答えください。）

換気機器の仕様が分かる資料（カタログのコピー等）を別添として送付してください。

(2) ダクト式換気システムの場合、換気エネルギーの消費率をご確認ください。

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）		
レベル 0	レベル 1	レベル 2
1.0	0.70	0.50
—	□手法 1	□手法 1+2

記入例：主ダクトと枝ダクトとも、直径 100mm であり、DC モータを導入した場合：

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）		
レベル 0	レベル 1	レベル 2
1.0	0.70	0.50
—	□手法 1	■手法 1+2

３－２）壁付け式換気システム（第一種、第二種、第三種）（方式２）

(1) 手法を確認してください。

手法１　ファンと屋外端末の組み合わせの適正化

□　いずれの屋外端末にも防虫網はついていない。

□　_____台中_____台の屋外端末に防虫網がついている。
壁付け換気ファンの合計消費電力_____W

※壁付け式換気ファンの機外静圧と風量との関係図（特性曲線）及び屋外端末等の使用する換気部材の圧力損失特性、及びファンの消費電力がわかる資料を添付してください。

(2) 壁付け式換気システムの場合、換気エネルギーの消費率をご確認ください。

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）	
レベル 0	レベル 1
1.0	0.80
—	□手法 1

記入例：プロペラファンと圧力損失の小さいガラリ型端末の組み合わせを採用した場合：

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）	
レベル 0	レベル 1
1.0	0.80
—	■手法 1

給湯設備計画　チェックシート

（回答必須）

※　以下の手順に従って、給湯設備のエネルギー消費率のレベル評価を行ってください。

1. 給湯器（太陽熱利用の場合は補助熱源機）を確認してください。仕様が分かる資料（カタログのコピー等）を別添として送付してください。

2. 省エネ手法の採用を確認してください。

手法２　高効率給湯機の導入

□　潜熱回収型ガス給湯機（エコジョーズ）
□　潜熱回収型石油給湯機（エコフィール）
□　自然冷媒ヒートポンプ式電気給湯機（CO_2HP：エコキュート）

自然冷媒ヒートポンプ式電気給湯機をチェックした方のみお答えください。

リモコンを確認し、沸上モードの設定（例：おまかせ、節約、おすすめ、たっぷり、深夜のみ　湯量中、深夜のみ　湯量多め等）を記入してください。

モードの設定（エコキュートのみ）：＿＿＿＿＿＿＿＿

手法３　給湯設備各部の省エネルギー設計・工法等の検討

給湯設備各部の省エネルギー設計・工夫等を確認してください。

□　サヤ管ヘッダー方式の採用
□　給湯配管経路の最短化と管径の最小化
□　給湯配管の保温
□　給湯器設置位置の検討
□　浴槽の保温
□　浴室の保温
□　節湯器具の採用

必要に応じて採用している節湯器具（シャワーヘッド等）や浴槽などの仕様がわかる資料（カタログのコピー等）を別添として送付してください。

3.　給湯設備計画による給湯エネルギーの消費率をご確認ください。

レベル評価 / 条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）					
	レベル-1	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.1	1.0	0.9	0.8	—	0.6
手法 2： ①潜熱回収型ガス・石油給湯機 ②CO_2HP	□手法 2②「沸上最大モード」「深夜のみ最大モード」	□従来型給湯機 □手法 2②「深夜のみ中モード」	□手法 2① □手法 3	□手法 2①+3 □手法 2②「沸上中モード」	—	□手法 2②「省エネモード」 □手法 2②「省エネモード」+3

記入例：CO2HP の省エネモードで使用し、かつ給湯配管の保温などの措置を行った場合：

レベル評価 / 条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）					
	レベル-1	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
	1.1	1.0	0.9	0.8	—	0.6
手法 2： ①潜熱回収型ガス・石油給湯機 ②CO_2HP	□手法 2②「沸上最大モード」「深夜のみ最大モード」	□従来型給湯機 □手法 2②「深夜のみ中モード」	□手法 2① □手法 3	□手法 2①+3 □手法 2②「沸上中モード」	—	□手法 2②「省エネモード」 ■手法 2②「省エネモード」+3

なお、電気ヒーターによる給湯機を採用した場合のエネルギー消費率の評価は以下に従ってください。

適用される機器	エネルギー消費率(標準値を 1.0 とした場合)
□電気温水器（ヒーター式）	2.68

照明設備計画　チェックシート

照明設備計画による省エネ手法を採用する。

□　YES　→　「照明設備計画　チェックシート」をお答えください。

□　NO　→　「高効率家電機器の導入　チェックシート」へ

1.　照明設備計画による省エネルギー手法を確認してください。

（以下のエネルギー手法がわかる器具の配置・種類を記した図面を別添資料として送付してください。）

□　手法１　機器による手法

住宅全体で主に採用している照明機器の光源の種類についてお答えください。

- □　電球蛍光ランプ
- □　Hf 蛍光ランプ
- □　反射型ハロゲンランプ・レフランプ
- □　LED
- □　その他、高性能な器具による工夫を記入してください。（例：高効率反射板ダウンライトの採用、光触媒膜付器具の採用など）

□　手法２　運転・制御による手法

住宅全体で主に採用している運転・制御による手法を選択してください。

- □　調光スイッチ
- □　リモコン
- □　タイマー
- □　人感センサー
- □　照度センサー

□　手法３　設計による手法

設計による工夫等（例：LDK における多灯分散照明の採用）について記入してください。（自由記述）

2. 照明設備のエネルギー消費率をご確認ください。

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
1.0	0.85	0.8	0.7
□従来型	□手法 1	□手法 1+2	□手法 1+2+3

記入例：電球蛍光ランプと人感センサーを採用した場合：

エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
1.0	0.85	0.8	0. 7
□従来型	□手法 1	■手法 1+2	□手法 1+2+3

高効率家電機器の導入　チェックシート

（回答必須）

1. 最重点家電・重点家電の省エネクラスをご確認ください。
   該当する機器が無い場合は回答不要です。

(1) 冷蔵庫

□　クラス-1：1994 年以前製品
□　クラス 0：1995～2000 年製品
□　クラス 1：2001 年以降製品
□　クラス 2：2007 年以降の省エネ製品

製造年：　　_____年
年間消費電力：　_____kWh　（取扱説明書等に記載されています）

(2) テレビ

台数：_____台
各テレビの画面の大きさ：_____インチ，_____インチ，_____インチ

□　クラス-1：プラズマ・37 型・2004 年以前製品
□　クラス-1：プラズマ・37 型・2007 年の製品
□　クラス 0：ブラウン管・28 型・2000 年以前製品
□　クラス 0：液晶・37 型・2004 年以前製品
□　クラス 1：液晶・37 型・2007 年の製品
□　クラス 2：液晶・28 型・2000 年以前製品
□　クラス 3：液晶・28 型・2001 年以降製品

(3) 温水暖房便座

台数：_____台

□　クラス-1：貯湯タイプ
□　クラス 0：瞬間湯沸かしタイプ
□　クラス 1：瞬間湯沸かしタイプ（時間制御つき）

(4) 電気ポット

□　クラス 0：通常
□　クラス 1：魔法瓶タイプ

2. 家電機器のエネルギー消費率をご確認ください。

レベル評価 / クラス条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
	レベル-1	レベル 0	レベル 1	レベル 2
	1.4	1.0	0.8	0.6
冷蔵庫 テレビ 温水暖房便座 電気ポット	□-1+0+0+0	□0+0+0+0	□1+1+0+0	□2+3+1+1

記入例：冷蔵庫とテレビは 2010 年の製品で、暖房便座は瞬間湯沸かしタイプ（時間制御つき）で、魔法瓶を使用する場合：

レベル評価 / クラス条件	エネルギー消費率（標準値を 1.0 とした場合）			
	レベル-1	レベル 0	レベル 1	レベル 2
	1.4	1.0	0.8	0.6
冷蔵庫 テレビ 温水暖房便座 電気ポット	□-1+0+0+0	□0+0+0+0	□1+1+0+0	■2+3+1+1

水と生ゴミの処理と効率的利用　チェックシート

（水と生ゴミの処理と効率的利用を採用した方のみお答えください。）

※「水と生ゴミの処理と効率的利用」について、1 次エネルギー消費量の削減効果を推計する方法がないため、エネルギー消費率の評価を行いません。

□　手法１　節水型機器の利用

（以下、採用するにチェックした方のみお答えください。）

大便器、給水・給湯水洗い金具、シャワーヘッド、洗濯機の４種類について、機器販売のおおよその時期をお答えください。

□　１９９０年代市販レベル
□　２０００年代市販レベル
□　２００４年代市販レベル

□　その他の手法

水と生ゴミの処理と効率的利用についてその他の工夫（雨水・排水再利用システム、雨水浸透桝等の利用、排水の高度処理技術の採用、生ゴミの効率的処理技術の採用など）がありましたら記入してください。（自由記述）